

陳 情 文 書 表

<p>受 理 番 号 ・ 受 理 年 月 日 及 び 件 名</p>	<p>陳情第187号（8.3.11） 2026年度保育・教育予算の増額を求める陳情</p>
<p>陳 情 の 要 旨</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神戸市の全ての子供が希望する保育施設に入所できるようにすること。 2. 保育士や放課後児童支援員の処遇を改善すること。 3. 神戸市の責任で、早急に1歳児、3・4・5歳児の保育士配置基準を改善すること。 4. 神戸市独自で全ての子供の保育料や給食費等の無償化を行うこと。 5. 保育・教育の質を充実させるために、神戸市の単独補助を増額すること。 6. 自治体が責任を持つ公立保育所、公立幼稚園をこれ以上減らさないこと。
<p>陳 情 者 の 住 所 及 び 氏 名</p>	<p>神戸市中央区 神戸市保育運動連絡会 代表 岡 富美子</p>
<p>送 付 委 員 会</p>	<p>教育こども委員会</p>

2026年3月11日

神戸市議会議長 菅野 吉記様

神戸市保育運動連絡会
代表 岡 富美子
神戸市中央区
電話

2026年度 保育・教育予算の増額を求める陳情書

<陳情趣旨>

私たちは、神戸市に住むすべての子ども達が健やかに成長出来ることを願い、運動をすすめてきました。

77年ぶりに3・4・5歳児の職員配置基準が見直されましたが、経過措置など様々な制約があり完全実施ではありません。1歳児の基準改正は見送られ、加算措置となっています。すべての施設で保育士の増員をすることが、ゆとりある子育て支援につながります。

子育て支援の新しい制度として4月からの本格実施が予定されている「こども誰でも通園制度」は全国どこからでもアプリ予約ができる制度の創設が掲げられています。しかし、一人当たりの利用時間や施設に支払われる補助単価が低すぎるなど、子どもの発達を保障し、安全安心の中で生活できる少子化対策とは程遠いものです。

子育て支援の充実が望まれています。その担い手である保育士不足が深刻です。公立でも民間でも正規職員が配置できず、短時間勤務職員で穴埋めをするというパッチワークのような保育運営を余儀なくされています。職員不足と少子化を理由に0歳児の定員引き下げが行われています。そのため0歳児の途中入所ができずに兄弟で違う施設に通う家庭も増えています。

今こそ、さらなる配置基準の改善や保育士の処遇全般を見直すことが、子どもの権利を守り本当の意味の少子化対策にもつながります。このたび私たちは多くの保護者や市民の方に訴えて以下の6項目での市長あての要望署名を4,672筆集めて子ども家庭局に提出いたしました。4,672人の市民・保護者・保育士の思いを受け止めていただき、子どもたちのための予算を大幅に増やし神戸市の責任で、だれもが安心できる保育環境の改善が出来るよう以下について陳情します。

<陳情項目>

- 1、神戸市のすべての子どもが希望する保育施設に入所できるようにしてください。
- 2、保育士や放課後児童支援員の処遇を改善してください。
- 3、神戸市の責任で、早急に1歳児、3・4・5歳児の保育士配置基準を改善してください。
- 4、神戸市独自ですべての子ども保育料や給食費等の無償化を行ってください。
- 5、保育・教育の質を充実させるために、神戸市の単独補助を増額してください。
- 6、自治体が責任を持つ公立保育所、公立幼稚園をこれ以上減らさないでください。